「高等学校における漢文の指導」

―実際の生活に関わらせた漢文入門期指導―

秋　元　達　也

一、はじめに

実際に教壇に立つようになってから、今年（平成元年）で五年目を迎えた。その間、数百名の生徒達と様々な教材を用いて国語を学習して来た。しかし満足のいく授業には未だ程遠く、試行錯誤の日々が続いている。

現任校である鹿児島県立出水高等学校は、生徒数約九百五十名、その大多数が大学進学を目的としている普通科高校である。創立七十年の伝統と、鶴の渡来地としても有名な素晴らしい自然の中で、生徒達は日々努力を続けている。

一方、前任校であった鹿児島商業高校は、生徒数約千二百名、全国でも珍しい男子のみの商業科単科の公立高校である。私はここに四年間在職したわけだが、いわゆる進学校出身の私にとって、教師生活最初の四年間を職業系高校で過ごせたことは、実に貴重な体験となっている。

この鹿商では、全校生徒の九割以上が部活動に参加している。また、毎月一回以上のペースで商業科関係の検定が実施されており、生徒の国語の授業に対する興味・関心は決して高いものとは言えなかった。その中でも、古典に対しては一段と低く、その原因を当時私は次のように考えていた。

① 漢字や文法に対する嫌悪感や劣等感
② 受験には不要であるとの認識
③ 手間のかかる読解力作業への消極的・逃避的姿勢
④ 以上のような考え・認識を持つ生徒に対して行われる注釈一辺倒の講義式授業

①～③は学習者側の、④は指導者側の問題点である。最も問題にすべきは④であるが、その際は当然①～③を考慮したものでなけ

ればならない。そこで、この状況を脱し、少しでも「楽しく、ためになり」「生徒が主体的に活動する」漢文教室を目指そうとした試みを先の（昭和六十三年）学会で報告させていただいた。

しかし、本年四月にここ出水高校に赴任し数カ月を経た今、先の問題点のうち②を除く全てが本校にも当てはまるのではないかという気がしている。②を除く、と書いたが、逆に「受験に必要だから仕方なく」という消極的姿勢も新たな問題点として掲げるべきだろう。

そこで今回は、先の学会での提案をベースに、新任地での思いもふまえて、「高等学校における漢文の指導」というテーマで再提案させていただくことにした。

二、提案の主旨

(1) 入門期指導の改善

様々なアンケートでも明らかなように、学習者の漢文学習に対する期待感は高い。それが学習を経るにつれ「漢文嫌い」が増えていく。その原因としてまず考えられるものに、入門期における徹底した句法指導が挙げられると思う。

句法指導が大切であることはいうまでもない。漢文を読むための最も基本的かつ重要な知識である。ゆえに句法指導の是非をここで問題にしているのではない。問題は、その取り上げ方、及びその時期についてである。

漢文のみならず古文においても、その入門期における最大の目標は「親しみを持たせる」ことであると考える。学習者の学習以前における漢文に対する興味は、決して漢文を読むための技能・文法面にあるのではなく、内容面、更に言えば漢文の持つ雰囲気に対するものが多いようである。その雰囲気を雰囲気のままで終わらせてしまえば漢文教育とは言えないわけで、やはり段階的に、雰囲気を味わうところから漢文そのものを自分で読み解く能力・意欲を育てる方向へ向けなければならないと思うが、その時点においても彼らの抱く「あこがれ」は大切にすべきではないか。入門期指導は、彼らの「雰囲気へのあこがれ」を大切に育みながら、その抽象的なものを「漢文」という具体的なものにつなげていくための最も重要な時期にあたると考えるのである。よって、入門期における句法指導はよほど慎重に行わなければ、「雰囲気」を短絡的にデジタル的な「漢文」につなげてしまうことになり、学習意欲を失わせる（＝漢文に失望させる）結果になってしまうのではなかろうか。

(2) 生活に関わらせた入門期指導

それでは具体的にどのような入門期指導が考えられるか。

漢文の授業は、やはり学習者を漢文と真剣に対峙させることを学習活動の中心に置くべきである。これは入門期とは言え例外ではない。しかし現状は、あまりにも解釈に重点を置きすぎるために入門期から句法や注釈中心の授業となっているのではなかろうか。

そこで入門期には、原文は重視するが、学習者と教材の間にワンクッションを置き、学習者に親しみを抱かせる一方で抵抗感を

柔らげながら、漢文に対する興味・関心を高めていくような学習の必要性を感じる。私はそのクッションとなるものを学習者の実際の生活に求めたい。その意義は次の通りである。

① 漢文に対する親しみを抱かせやすい。

② 実際の生活に生きて働く力が身に付く。―学習の効果と必要性を学習者に認識させることができる。

③ 様々な言語活動の場が設定できるので、学習者の言語能力を把握する機会が多い。

これらのうち②についてであるが、漢文は何のために学習するのか、学習者にその目的を見出させにくい科目である。もともとが外国文学であるがゆえに仕方のないことかもしれない。このことが、先に挙げたように「受験に必要ないから勉強しない」とか「入試に出るから仕方なく」などと言った姿勢につながり、学習者を受動的にしている大きな要因の一つになっていると考えられる。

この入門期の時点で、現代生活のいたる所で漢文が生きているという事実を認識させることは、高校時代のみならず、彼らの生涯における漢文学習の必要性を認識させることも可能となり、学習をより主体的なものにしていく契機となるのではなかろうか。

三、実際の生活と関わらせた入門期指導の具体案

そこで今回は、「故事成語」を実際の生活と関わらせた学習の展開を具体的に提示することによって、提案とさせていただきたい。

この単元は、一九八八年六月～七月に、鹿児島商業高校で実践したものを、同年八月の学会での提案の際ご指導いただいたことや、現在の私の考えに基づいて作成しなおした全くの案であることをお許しいただくとともに、ご一読いただき、ご指導・ご鞭撻を賜われば幸いである。

1、単元名「日本語のなかに息づく漢文」

2、あらまし

我々の日常生活の中で用いられる故事成語の正確な意味・用法を知り、新聞・雑誌・作文等における用例を検証したり、その語句を用うるに値する出来事を日々の生活の中に探す等の作業を行う。

3、指導目標

① 漢文が日常の言語生活と密接な関わりがあることを理解させ、漢文に対する興味・関心を高めるとともに、今後の漢文学習に対する意欲を養わせる。

② 故事成語の正確な意味・用法を理解させる。

③ 基礎的な訓読法を習得させる。

④ 日常の言語生活に積極的に取り組もうとする姿勢を養わせる。

4、教材

①漢文（故事）

教材は、日常生活でよく用いられることを規準に、教科書に採用されているものを中心として選択した。

・全体学習用として「矛盾」

・班別学習用としてイ「虎の威を仮る狐」ロ「完璧」ハ「蛇足」ニ「五十歩百歩」ホ「株を守る」ヘ「漁夫の利」ト「虎穴に入らずんば虎子を得ず」ホ「杞憂」

親しませることを最大の目標としているので、訓点つき漢文の他に、書き下し文、口語訳も付したテキストを作成した。

②「矛盾」の用例

新聞・雑誌等に「矛盾」の用例をさがし、予め準備しておく。実例には二十五例が集まった。（資料⑤）

③新聞縮刷版

グループ学習時に担当している故事成語の用例を探させるのに用いる。学習者の人数分の冊数を準備。この場合、一人一人異なる年月号を持たせる。

5、実施学年　高校一年生

6、実施時期　一学期前半

7、学習の展開

(1)　全体学習（三時間）

①第一時

・本時の指導目標

漢文の特徴に気づかせるとともに、徹底した音読によりその口調に慣れさせる。

・本時の展開

②第二時

・本時の指導目標

	学習内容	指導上の留意点
導入	1、指導者の話を聞く 2、学習目標の把握	・日常生活で何気なく用いている故事成語について、その意味と字義との関係を問い、問題提起として、故事成語への興味づけとする。
展開	1、「矛盾」の意味と「矛」「盾」それぞれの字義を知る。	・漢和辞書のひきかたを指導。 ・「矛」と「盾」でなぜ「つじつまが合わない」という意味になるのか、問題提起する。

	2、「矛盾」本文と書き下し文とを比較し、気づいたことをまとめる。 3、珍しい、おもしろいと思った漢字を拾いあげる。 4、音読の練習をする。	・漢文の特徴を指導する。ここでは特に訓点の持つ意味について指導し、返り点に従って読む訓練を行う。 ・辞書で意味を調べて来ることを課題とする。 ・範読、追従読、個別読、一斉読。十分に時間をかける。 ・暗誦を奨励する。
結び	1、次時の計画を知る。	・教材文を読み、「矛」と「盾」でなぜ「つじつまが合わない」という意味になるのかという問題を解決することを指示。 ・課題として内容的に矛盾のある二百字程度の意見文を書いて来ることを指示する。（様式は資料①）

前時の目標に加え、「矛盾」が「つじつまが合わない」という意味を持つ理由を漢文の読解を通して理解させる。

・本時の展開

③第三時

・本時の指導目標

「矛盾」を日常生活で正しく用いる能力を養うとともに、漢文

導入	1、珍しい、おもしろいと思った漢字とその意味を発表する。 2、学習課題の確認。	・数人に発表させ、適宜コメントを加える。 ・「矛」と「盾」でなぜ「つじつまが合わない」という意味になるのか。
展開	1、音読の練習。	・範読、個別読、指名読（二人）

	2、本文を通釈文も参考にしながら理解し、学習課題を解決する。 ① 「楚人」の職業は何か。 ② 「盾」の特徴は何か。 ③ 「矛」の特徴は何か。 ④ ある人の質問に対して、楚人はなぜ答えることができなかったのか。→実際に突いたらどうなるか。	・できるだけ訓読で答えさせる。 ・後の発言の目的を明確にさせる。語法は「楚人」「与」 ・語法は「日」を指導。 ・つじつまの合わない点を明らかにさせる。語法は「何如」「不」を指導。 〈板書〉 盾→堅くて突き通せるものはない ＝ 「矛」でも突き通せない →（しかし「矛」の鋭さは…） つじつまが合わない＝矛盾 ←（しかし「盾」の堅さは…） 「盾」でも突き通す ＝ 矛→利くて何でも突き通す 売るための宣伝	
結び	1、本時のまとめをする。 2、次時の計画を知る。	・課題の解答として指導者が簡潔にまとめる。 ・前時の課題である作文と、用例を用いて、それら「矛盾」という語句の用いられ方は正しいかどうかを検証することを予告。資料①の2をまとめておくことを課題とする。	

の言語生活における役割の大きさを認識させ、漢文学習への意欲を培う契機とする。

・本時の展開

導入	1、音読の練習。 2、学習課題の確認。	・個別読みの後、暗誦を試みさせる。 ・各自が書いた作文、及び指導者が集めた用例の「矛盾」の用法、考え方は正しいか検証することを明示。
展開	1、課題作文の検証。 2、各自に配布された用例の検証。 3、用例の検証結果の報告。	・課題作文プリント（資料①）回収後、本人以外の学習者に配布し、矛盾点の指摘（資料①の2）は正しいか検証させる。（資料①の3） ・指導者が集めた用例を配布。二十五例のうち二十三例を使用。よって同じ用例を二人の学習者が検証することになるが、このことは指示しない。プリント（資料②）に従って学習させる。 ・二・三人に発表させ、後はプリントを一冊に綴じて回覧させることで報告にかえさせる。（プリント回収）
結び	1、まとめ。 2、次時の計画を知る。	・検証結果を基に、日常生活の中における漢文の役割について考えさせることでまとめとする。同時に今後の漢文学習に対する心構えについても指導しておく。 ・次時からグループ学習に入ることを明示。

(2) グループ学習（五時間）

一クラスを八グループ（一グループ五・六名）に分け、グループ毎に別々の故事成語を担当させて「矛盾」で行ったような研究を行う学習である。

学習は「グループ学習のすすめ方の手引き」（資料③）に従って、各グループごとの計画により行われるが、「矛盾」の場合と同じく大きく三つの段階に分けることができる。即ち、

Ⅰ　音読の学習
Ⅱ　内容読解の学習
Ⅲ　日常生活に生かす学習

である。

この単元の目標からして、ここでは特にⅠとⅢの学習を重視した。音読については、担当の故事成語については完璧な音読を要求しているのはもちろんであるが、他の教材も一通りは読めるように、グループの担当語発表前に全教材を音読する時間を設定した。数多く読ませることが漢文の口調に慣れさせる、最も確実な方法なのではなかろうか。Ⅱの内容読解については、担当の故事成語の意味とそこに用いられている字義との関係を明らかにすることを主な学習内容とし、その結果を一枚の構造図で表わすことを課題とした。いくら書き下し文と通釈付きのテキストを準備したとは言え、初学者にとっては非常に困難な学習である。よってここでは、指導者は全ての教材文について自らの構造図案を持ち、適宜学習者を導いて行くことが求められる。この方法によれば、例えば前任校においても、資料④のような構造図を完成させている。

このグループ学習の大まかな展開案は次の通りである。

Ⅰ	1、全教材を音読する。 2、グループ、及び担当語の発表。 3、担当の教材の音読練習。	・各教材につき、範読二回、追従読一回、個別読一回を繰り返し、全教材終了後、再び個別読の時間を設ける。
Ⅱ	4、学習計画の立案。 5、辞書を用いて故事成語の意味、及び用いられている字義の確認。 6、漢文の内容を読解し、構造図を書く。 7、読解及び構造図を基に、5で調べた様々な辞	・案をチェックしアドバイスを与える。 ・字義については漢和辞書、故事成語の意味は漢和、国語等、数種類・多社の辞書を用いて確認させる。 ・まず個人案を書かせ、それからグループ案としてまとめさせる。 ・読解のさらなる深化を目的とした学習である。

	書の意味を検証し、最も的確な意味を導き出す。	
Ⅲ	8、新聞の縮刷版を受け取り、担当の故事成語の用例を探し、検証する。 9、新聞記事、及び身の回りの社会の出来事の中に、担当の故事成語を用いるに値する出来事を探す。	・実際には朝日新聞の縮刷版を昭和三十七年から六十二年二月までにわたり四十六冊準備した。

(3) 研究結果の発表

研究結果の発表は、できれば発表会を開くことによって行いたい。前任校における実践では実際に発表会を開催した。しかし全ての現場で、というのは不可能であろう。従って資料を作成し、それを配布して終わり、といった状況も十分に予想される。ただし、そのような場合も、担当した漢文の音読会、可能であれば暗誦会を開くことは必要であると思われる。これにはもちろん口調に慣れさせる、という目的もある。しかしそれ以上に、自分達だけしか学んでいない漢文とその学習結果を音読という形で表出することにより、学習者は自らの学習内容に価値を見出せ、そのことが今後の漢文学習への大きな意欲につながって行くと考えられるからである。

四、おわりに

今回は入門期指導の改善案の一つとして、実際の生活と関わらせた指導案を提示することによって提案とさせていただいた。

先にも述べたが、やはり漢文の授業においては、漢文そのものを授業の中心にどっかと据えた指導を行いたい。そしてその中から、様々な人間の姿を読み取らせ、学習者の思考・認識を拡充・深化させて行きたいと願っている。その意味においては、生活と関わらせていく方法には限界は当然ある。しかし、生活と関わらせることは人間と関わらせることにつながっているのだと私は考えている。漢文を自分との関わりあいの中で読み、学ぶ。その時に司馬遷や李白は私達の人生の糧となってくれるであろう。

現在、本校でも登校拒否の生徒の増加は大きな問題となっている。彼等が漢文と接することによって、新たな自己に目覚め、目的を見出し、再出発してくれれば……と願っている。漢文にはそれだけの力があると信じる。あとの力は指導者としての私自身の課題である。

(鹿児島県立出水高等学校教諭)

資料①

課題作文プリント「矛盾」

一年　組　番（　　）

1、現在の君達の日常生活、社会において、「矛盾してるなぁ」と思うことを二〇〇字程度で説明しなさい。

2、「矛盾」という作品では「矛」と「盾」の特性が「つじつまが合わない」わけですが、それでは右の君達の作文において、「矛」と「盾」にあたる内容は何ですか。それぞれ五〇字程度で説明しなさい。

矛・・・

盾・・・

3、（　　）さんへ、私は（　　）ですが、私の検証の結果、あなたの考え方は（正しい・間違っている）と思われます。

間違っている場合、その理由は…

資料②

「矛盾」用例検証プリント

一年　組　番（　　）

1、あなたの用例を二〇〇字以内に要約してみなさい。

記事の見出し（　　）

2、この用例における矛盾点は次の通りです。

矛・・・　　盾・・・

3、検証結果…この用例における「矛盾」の使用法は（正しい・間違っている）

間違っている場合、その理由は…

資料③

日本語のなかに息づく漢文　グループ学習のてびき

☆各グループ担当の故事成語がどのような故事から生まれ、そして現在どのような用いられ方をしているのか、研究しよう。

1、漢文を読む。声に出して読む。書き下し文を見なくても読めるようになるまで読む。グループ全員が読めるようになるまで読む。

2、辞書をひく。・・・担当する故事成語の漢字、一字一字の意味を確かめる。
・読み方がわかっているのだから（　　）索引ですぐひける。
担当する故事成語の意味を確かめよう。
・グループ全員が別々の辞書を調べてみよう。すべて同じだろうか。また、漢和辞典以外の辞書も調べてみよう。

3、漢文を読解する。・・・2で調べた意味はどんな故事から生まれたのだろうか。
「矛盾」のようにわかりやすく構造図に表してみよう。
①　登場人物の整理・・・お互いの関係、役割、主張。
②　状況の把握・・・何をしようとしているのか、何をしたのか、何が起こったのか。
③　その状況の中で、故事成語のそれぞれの漢字（矛、盾、虎、蛇等）の持つ意味を考えよう。
・何かを例えているのだろうか。それは結局どうなったの。・対立してるのかもしれない。・影響はあったかどうか。・似ているから線でつないで。などなど。
まず個人案。それからグループ案。まず鉛筆を持って書いてみること、これが大切です。

4、2で調べた意味の中で最も適当な意味を選ぶ。なければ自分達で考えよう。

5、新聞記事の検証
①　担当する故事成語の用例を、各自の新聞縮刷版に探し、用法を検証する。
②　新聞の記事の中に、または自分達の身の回りの社会に、その故事成語は使えないだろうか。
使えそうな出来事を二〇〇字程度にまとめておく。

6、発表
以上の研究結果をB4版2、3枚の資料にまとめてもらいます。まとめかたは別に指示します。

以上1から6の作業を五時間で行うことになります。各班で時間の割り振りや担当者をしっかりと決めておくこと。作業計画が

できあがったら一度先生に見せること。

6 計画

		月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日
	内容												
	責任者												

資料④

構造図

祠者＝酒

家来(1)先にかきあげる＝飲む権利

家来(2)次にかきあげた

・一人で飲めば余る。
・多数で飲めば足りない。

・家来(1)は蛇に足をつける

余けいな物

蛇でなくなる

・家来(2)はそのまま

〈その結果〉

・家来(1)は酒を飲めなくなり

・家来(2)は酒を飲んだ

〈蛇足〉鹿児島商業高生徒作品

祠者

酒＝｛数人で飲めば…足りない／一人で飲めば…余る｝

舎人

・一番先に蛇を描く

・足をつける

〈飲む権利〉

〈理由〉

足という余計な物をつけたために蛇が蛇でなくなった

飲む権利を失った

指導者案

○収集した「矛盾」の用例一覧（見出しと出典）

① 対立深い国語問題 （朝日 S. 36. 3）
②「自白偏重」浮彫り （朝日 S. 47. 12）
③ 参院代表質問と「首相答弁」 （朝日 S. 47. 11）
④ 総選挙控え火花 （朝日 S. 47. 11）
⑤ 天声人語 （朝日 S. 61. 9）
⑥ 大事なことを隠していないか （朝日 S. 61. 7）
⑦ “形づけ”を迫られる“予言” （朝日 S. 40. 12）
⑧ 全力あげ拡散防止 （朝日 S. 40. 12）
⑨ 常識や世論を重視する姿勢 （朝日 S. 62. 11）
⑩ どう守る「知る権利」 （朝日 S. 47. 4）
⑪ 西側再結束への底流 （朝日 S. 38. 5）
⑫ 開放・改革路線は不変 （朝日 S. 62. 5）
⑬ 素人の目で不正摘出 （朝日 S. 61. 9）
⑭ 国境なき経済の時代とは （朝日 S. 63. 6）
⑮ 病押し33年ぶり改訳 （朝日 S. 63. 6）
16 百日後に迫ったソウル五輪 （南日本 S. 63. 6）
17 弁論「鹿商のめざめ」 （鹿商高学校誌『紫雲』33号生徒作品）
18 天声人語 （朝日 S. 48. 1）
19 矛盾解消の道は憲法の改正 （朝日 S. 36. 3）
20 矛盾ゲーム （朝日 S. 61. 11）
21 主犯の供述も疑問 （朝日 S. 61. 8）
22 江田氏が正式出馬 （朝日 S. 41. 12）
23 転換期の地方自治 （朝日 S. 62. 1）
24 南ア機墜落依然ナゾ （朝日 S. 62. 12）
25 現代技術本質転換のとき （朝日 S. 47. 5）